

刈谷市 歴史 博物館 NEWS

Kariya city Museum of History NEWS

Vol. 01
2019.09

刈谷市歴史博物館 NEWS とは？

企画展や文化財を中心に、歴史について考えるきっかけづくりとして、刈谷市歴史博物館 NEWS を発行します。展示だけでは伝えきれないことや、日々の調査研究から見えてきたことを、本紙を通じて発信しています。

CONTENTS

刈谷市歴史博物館の機能と役割	-----	p.2
資料紹介	-----	p.3
Report(展示報告)	-----	p.4
NEXT Exhibition(次回展示)	-----	p.6

2019.03.24 刈谷市歴史博物館が開館しました



開館記念式典テープカットの様子

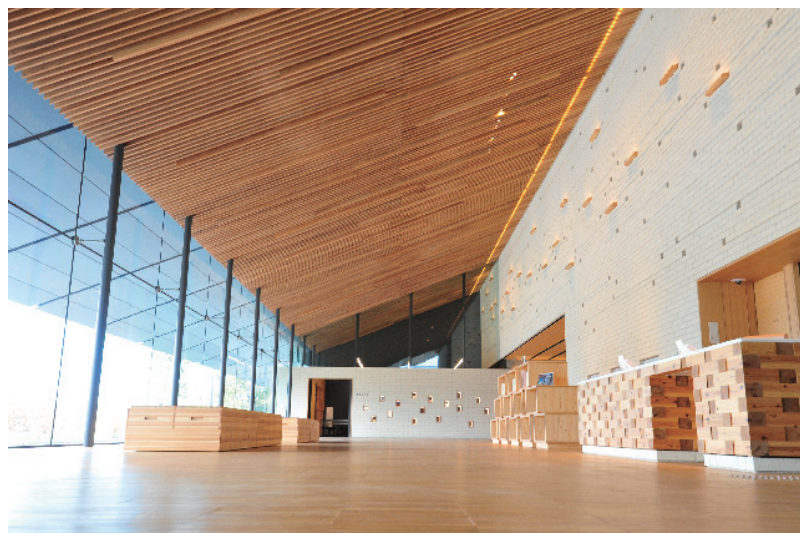
ごあいさつ

刈谷の歴史に親しみ、学ぶことができる生涯学習活動の拠点として、平成31年(2019)3月24日に刈谷市歴史博物館が開館しました。

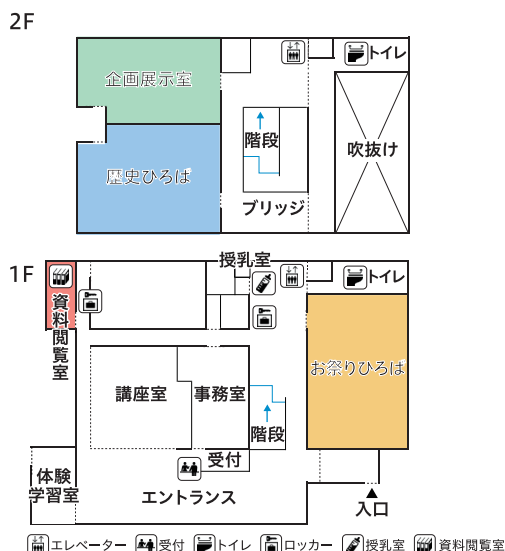
当館は、刈谷城跡である亀城公園の周辺に位置しており、刈谷市の歴史資料の保存継承、調査研究を行いながら、その成果を展示や普及啓発活動によって紹介しています。

これから、どうぞよろしくお願いいたします。

刈谷市歴史博物館の機能と役割



館内エントランス



刈谷市歴史博物館は、刈谷の歴史資料や祭礼文化等を保存継承・調査研究・活用する施設です。資料の展示や保存といった、一般的な博物館の機能のほかにも、さまざまな機能を含んでいます。

ここでは、当博物館の機能や役割について紹介します。

ミュージアム機能

- ◆収集保存
- ◆調査研究
- ◆展示公開
- ◆教育普及

埋蔵文化財保存活用機能

- ◆発掘出土遺物の整理
- ◆調査報告書作成
- ◆遺物を用いた教育普及活動

祭り伝承機能

- ◆祭礼道具の収蔵・展示
- ◆万燈祭で使用する万燈の担ぎ体験
- ◆映像による保存継承

アーカイブズ機能

- ◆収集した古文書の整理
- ◆古文書や図書の閲覧

企画展示室

歴史ひろば

お祭りひろば

資料閲覧室

歴史博物館の機能

博物館が担う役割は、①収集保存、②調査研究、③展示公開、④教育普及の4つに大きく分類されます。これを「ミュージアム機能」とすると、当博物館はここに「埋蔵文化財保存活用機能」「祭り伝承機能」「アーカイブズ機能」を兼ね備える多機能型博物館です。

これらの機能は、今まで別々

の施設に配置されていましたが、当博物館に集約されました。この4つの機能を軸に据え、相互につながることで、刈谷の歴史資料の保存・活用を、より有効なものとしします。

歴史博物館の役割

当博物館の中には、展示室や閲覧室のほかにも、講座室と体験学習室があります。ここでは、

講演会やワークショップを開催し、歴史文化の教育普及に努めています。

また歴史資料・考古資料・図書の収蔵庫では、日々資料の調査を行っています。保存状態の確認や多角的な研究を進めていくことで、新たな発見を探るとともに、これまで伝えられてきた先人たちの「たから」を、次の世代へと繋ぐ役割を担っています。

資料紹介 「東京市街鉄道馬車萬世橋通行ノ景」



- 作品情報
- ◆品質形状 大判錦絵 三枚続
 - ◆寸法 (右)371 × 254mm (中)368 × 245mm (左)371 × 256mm
 - ◆作者 梅壽国利画 (印：山村清助)
 - ◆版元 長谷川其吉
 - ◆制作年 明治15年(1882)
 - ◆所蔵 刈谷市歴史博物館

概要

本作は、夏季企画展「はこぶものたち－運搬事始メー」の資料調査の中で発見された、錦絵(多色刷りの浮世絵)です。企画展に先立ち、ポスターやチラシなどで『はこぶものたち』を描いた資料』として紹介していましたが、ここでは作品に描かれたモチーフを中心に紹介を行いたいと思います。

まず、本作は大判と呼ばれる大きな紙を3枚横並びにして鑑賞する錦絵です。すべて並べると約370 × 755mmという、大きな画面になります。この画面いっぱいに、神田川にかかる萬世橋(現在は「まんせいばし」)とその上を通る鉄道馬車が、周囲の風景や名所と共に描かれています。鉄道馬車はもちろん、石造りのアーチが特徴的な橋や洋風の傘、ガス灯など、文明開化を表すモチーフが多く描かれることから、錦絵のなかでも「開化絵」というグループに分類されます。

本作の画面左下に「梅壽国利」と記載されており、作者は歌川国利(1847～99)であることが分かります。国利は、本名を山村清助といい、幕末から明治期前半にかけて活躍した浮世絵師です。三代歌川豊国(1786～1865)および二代歌川国貞(1823～80)の門人であり、名所絵・開化絵などを得意としました。

鉄道馬車

本作の中心のモチーフは「鉄道馬車(馬車鉄道)」です。鉄道馬車とはレールの上を走る馬車のことです。もともと馬や馬車を活用していたヨーロッパで誕生しました。日本では、「東京馬車鉄道」が明治15年(1882)に運行を開始し、市街交通のツールとして発展することになります。本作は鉄道馬車の登場後すぐに描かれているため、報道や広告の要素も持ち合わせていると考えられます。

線路掃除人



本作の特徴のひとつに、「線路掃除人」と赤い札(題箋)がつけられた人物があげられます。線路掃除人とは、鉄道馬車のレールを清掃する人のことです。また、鉄道馬車の客車の等級までも題箋を使用して説明しています。このように、鉄道馬車を子細に解説する作品は、ほとんどありません。人力車などの他の乗り物や洋装などに言及していない点からみても、本作は鑑賞用の錦絵というよりも、鉄道馬車の広告の側面が色濃い作品と言えるでしょう。

(学芸員 永井 優香子)

開館記念企画展

初代刈谷藩主 水野勝成展

～「鬼日向」のいくさとまちづくり～

2019年

3月24日(日)～5月19日(日)

本展覧会は、水野勝成の「戦い」と「内政」に注目して構成しました。勝成は「鬼日向」と呼ばれるなど、戦国武将として戦場での活躍ばかりに目が行きがちですが、実は転封先の福山においては「開祖」として現在まで顕彰活動が続いています。勇猛果敢な戦国武将でありながら、福山城の築城や城下町建設にも力を尽くす、そのような魅力ある人物像を伝えられたのではないのでしょうか。

第1章では「鬼日向・水野勝成の戦い」と題し、特に江戸時代の3つの戦い（関ヶ原の戦い、大坂の陣、島原・天草一揆）にスポットを当てました。それぞれ、戦いの流れと勝成の役割について伝える資料を展示し、徳川家康や江戸幕府を支える勝成の姿を明らかにしました。さらに、今回の展示では「現場主義」にこだわりました。戦いが行われた現地に遺された資料や、後

世その地において考証のため作られた資料も借用展示することで、一般的な教科書や歴史書で語られる戦いの姿とは、少し異なる見方を提供することができたのではないかと考えております。

第2章「為政者・水野勝成」では、領主としての勝成に着目しました。勝成は慶長5年(1600)に親の跡を継ぎ刈谷城主となった後、大和郡山を経て備後福山へと加増・転封されます。元和5年(1619)に10万石として入封した備後国では、領内をくまなく巡検し、現在の福山城の地を見出しました。当時新規の築城は禁止されていましたが、勝成は幕府から特別に許可を受け、築城を行いました。それに伴い城下町も一から建設し、特に水道管の敷設など当時の地方都市としては先進的な事業も展開しています。この他、寺社への崇敬も篤く、荒廃していた備後一宮の吉備津

神社再興をはじめ、多くの寺社へ寄進を行っています。ここでは人心の安らかなることを願う、為政者としての姿を見ることができます。



勝成は慶長5年から元和元年(1615)までの15年間、刈谷を治めていました。この15年間、勝成が刈谷で行った事業に関する資料は残念ながら見つかりません。しかし、福山における勝成の為政者としての姿を見ると、刈谷で何も行わなかったと考える方が不自然です。これは今後、研究の進展によって新たな資料の発掘が期待される場所です。

本展覧会は「開館記念企画展」と銘打ち、開館日からおよそ2か月にわたり開催しました。2万人を超える来館者の方にご覧いただき、勝成の事績についても多くの方に知っていただけたのではないかと思います。また、講演会や展示説明会の他にも数多くのイベントを開催することができました。

最後になりますが、本展及びイベントの開催にあたりご協力を賜りました全ての方に御礼を申し上げます。

(学芸員 長澤 慎二)



展示の様子

「水野勝成展」図録(800円)販売中
詳細は当館ホームページをご覧ください。

Pick UP

イベント報告

「水野勝成展」関連イベント

福山デー 2019年5月5日(日)

5月5日(日)には、「水野勝成展」の関連イベント「福山デー」が開催されました。かつて水野勝成が治めた、広島県福山市ゆかりの喜多流大島能楽堂による出張公演や、備後^{びんご}絃^{かすり}の実演・体験、^{とも}鞆^{はっさく}の浦の祭りに登場する「八朔の馬」の展示などを行いました。



喜多流大島能楽堂出張公演



備後絃体験

歴史博物館イベント

簡単工作・歴史体験講座

刈谷市歴史博物館では、土・日・祝日に「簡単工作」を開催しています。勾玉づくりや折り紙、ペーパークラフトなど、気軽に工作をすることができます。3か月ごとにメニューが変わるので、いろいろな工作にチャレンジしてみてください。

また、月に1回「歴史体験講座」も行っています。風鈴に絵を描いてみたり、紙すきをしてみたりと、普段はできない特別な体験ができる講座になっています。

各種イベントの詳細は、市民だよりや当博物館ホームページなどに掲載されているので、お見逃しなく！



勾玉づくり（簡単工作）の様子



風鈴づくり（歴史体験講座）の様子

2019年

9月7日(土)～11月4日(月・祝)

発掘された中条遺跡展

—地下に眠る刈谷の1万年—

刈谷市には約150か所の遺跡が存在します。遺跡とは、昔の人が生活した痕跡こんせきを指し、市内には本刈谷貝塚(天王町)をはじめとする縄文時代の貝塚から、近世の刈谷城跡(城町)など様々な時代の遺跡があります。

本来であれば、できるだけ手をつけずに後世に残していくことが望ましいのですが、やむを得ず宅地開発などが行われる場合には、工事前に発掘調査を行い、写真や図面等によって記録し、保存しています。

中条遺跡は刈谷市の東部、重原本町に位置する遺跡です。昭和34年に地元の刈谷高校の生徒により発見されて以来、長らく縄文時代の貝塚として周知されていましたが、刈谷市教育委員会が平成7・8年度に土地区画整理事業計画に伴い実施した範囲確認調査によって縄文時代から江戸時代に至る複合遺跡であることが判明しました。そこで、事業計画予定地のうち、約17,300㎡を平成9年度から平成12年度までの4年間にわたり発掘調査しました。

4年間の調査の結果、縄文時代の貝類や魚骨、獣骨など食料に関する資料もたくさん出土しました。また、飛鳥時代から室町時代の遺構、遺物が大量に出土し、各時代においてさまざまな地域との関わりを示すものが含まれており、かつてこの場所



平成10年度上半期調査区<南東から>(中条遺跡)

に住む人々が多くの地域と交流しながら生活していたことが初めて分かりました。またその生活のなかで、古代における官人、中世における武士などリーダーのすがたも垣間見ることができ、刈谷市の歴史を知る上で貴重な発見がありました。

本展示では、中条遺跡の出土品を中心に刈谷市の古の人々の暮らしについて紹介します。

発掘調査の様子



暑い日も…



雪が降った日も…

見どころ①

秋田県から土偶がやってきた!

中条遺跡では縄文時代の土器や石器、土偶などさまざまなものが出土しています。出土品の中には、東北地方北部のものと同様の文様がつけられた土偶があり、当時の祭祀や地域交流の一端を表す資料として注目されます。今回はその類似する土偶を秋田県北秋田市から借用しています。

東海地方での展示は"初"ですので、ぜひご覧ください。



見どころ②

中国の製品・玉取獅子

中条遺跡から出土した、室町時代ごろの皿です。

中国の景德鎮窯けいとくちんようで焼かれ、中には玉取獅子たまとりじしが描かれています。



(学芸員 河野 あすか)

刈谷の近代化と 豊田佐吉・喜一郎

—準備は出来たカリヤは邁進します—

2019年12月14日(土)～2020年2月9日(日)

刈谷が産業のまちとして発展した契機は、豊田佐吉らによる豊田紡織株式会社の刈谷試験工場設置に求めることができます。本展では、豊田佐吉と喜一郎の足跡をたどり、刈谷がどのように近代化を成し遂げたかについて、考えていきます。



A 1型試作乗用車 (1/5 スケール)
トヨタ産業技術記念館蔵



無停止杼換式豊田自動織機 (G型)
トヨタ産業技術記念館蔵



会期中には、刈谷市で三河木綿の伝承と織物の研究をしている「おさの会」によるイベントも予定。

Column

連載コラム



歴史ひろばにて



バックヤード (遺物整理室) にて

博学連携の試み

博学連携とは、「博物館」と「学校」が協力しながら、児童・生徒の教育を推し進める取り組みのことです。博物館だけ、学校だけでは学びきれないものを補い合うことで学習効果を高めることができます。

当博物館では、5月から6月にかけて市内の中学1年生を対象に、刈谷の縄文時代についての講座と、学芸員の解説付きの館内見学を行いました。実際に土器や矢じりに触ったり、バックヤードを見学したりと、中学校ではなかなか経験できないことを、学んでいただけたかと思います。

これからも、児童・生徒が当博物館を利用することで歴史に興味を持ち、学校での学びを深めたり、生涯を通して博物館を活用して学ぶ力をつけたりできるように努めます。

SCHEDULE 展示案内

2019
Sep
9月

Oct
10月

Nov
11月

Dec
12月

2020
Jan
1月

Feb
2月

Mar
3月

発掘された中条遺跡展
—地下に眠る刈谷の1万年—

9月7日(土)
～11月4日(月・祝)



刈谷の近代化と
豊田佐吉・喜一郎
—準備は出来たカリヤは邁進します—

12月14日(土)
～2月9日(日)

※記載内容は予告なく変更することがあります。
詳細・最新情報は当館ホームページをご覧ください。

INFORMATION 交通案内



鉄道をご利用の場合

JR東海道本線 逢妻駅
名鉄三河線 刈谷市駅 から
徒歩約15分

刈谷市公共連絡バス
「かりまる」をご利用の場合

東刈谷・逢妻線(黄色)
「刈谷市体育館」下車
徒歩約3分



お車をご利用の場合

伊勢湾岸自動車道
名古屋南ICまたは豊田南ICから
約20分

編集後記

刈谷市歴史博物館 NEWS Vol.01 をお届けします。創刊号ということで、手探りの編集でしたが、いかがでしたでしょうか。今後とも、展示や出品・収蔵資料などについて、分かりやすい紙面でご覧いただけるよう努めたいと思います。Vol.02以降も、宜しくお願いいたします。(永井)

編集・発行

刈谷市歴史博物館

KARIYA city Museum of History

〒448-0838 愛知県刈谷市逢妻町4丁目25番地1

TEL.0566-63-6100 FAX.0566-63-6108

URL : <https://www.city.kariya.lg.jp/rekihaku/>